

## <令和7年3月定例記者会見>

### 1 開催日時

令和7年3月6日（月）午前10時30分～午前11時10分

### 2 場所

滝沢市役所 庁議室

### 3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、岩手日報社

### 4 発表事項

#### (1) 学生アルバイト成果発表会の開催について（若者活躍推進室）

滝沢市は、大学を有する市として、学生の皆さんが、さまざまな市民や関係団体とつながり、まちづくりや地域の活性化に関わる機会を提供しています。

そのひとつである学生アルバイトの採用は、募集する業務を学生が自らの視点を取り入れ企画や運営に関わることができる業務とし、学生が活躍する場を創出しています。

現在、岩手県立大学、盛岡大学の学生6名が、4課2室に所属し業務に従事しています。

この学生アルバイトが、市職員を対象に、職務として企画・実施に関わった事業等の成果について発表する「学生アルバイト成果発表会」を開催します。（当日、開催時間中の入退室は自由です。）

取材のご協力をよろしくお願いいたします。

#### (2) Takizawa Hackathon Ver. 7（第7回滝沢ハッカソン）の開催について（企業振興課）

岩手県立大学ソフトウェア情報学部の卒業生や現役の大学生などで構成される「滝沢ハッカソン運営委員会」が主催する「第7回滝沢ハッカソン」が、3月15日土曜日、16日日曜日の2日間、滝沢市役所で開催されます。

今回で7回目の開催となる滝沢ハッカソンは、県内の学生を対象としており、その場集まった仲間と楽しみながら、2日間という短い時間で、システム開発やアプリケーション開発を行うイベントとなります。

今回は市と連携を図り、「自治体が抱える課題に挑戦せよ！地方の農業を支える新しいつながりを創る」をテーマに設定し、デジタルの力で、農業分野に関する本市の課題解決に取り組むものとなります。

事業の周知及び取材についてよろしくお願いいたします。

#### (3) 春休みプログラミングワークショップの開催について（企業振興課）

市内及び盛岡広域の小、中学生を対象とする「春休みプログラミングワークショップ」を滝沢市IPU第2イノベーションセンターにて、3月22日（土）から3月23日（日）の2日間開催します。

この事業は、情報技術産業・職業への興味関心を育み、将来の技術者の育成や働く場としての滝沢を周知し、将来の滝沢市を担う人材育成を目指すことを目的として実施するものです。

春休みプログラミングワークショップの内容は、micro:bit（マイクロビット）を使用したロボットの操作やプログラミング言語である Scratch（スクラッチ）など幅広く学習することができます。

事業の周知及び取材についてよろしくお願いいたします。

#### （４）通学定期乗車券運賃値上げ分の助成について（都市政策課）

物価や燃料価格の高騰により厳しい経営状況の中にある公共交通事業者において、路線維持のための運賃改定による値上げが昨年度より行われております。

このことにより、自動車運転免許を所有していない交通弱者は経済的負担が強いられており、特にも日常的に公共交通を通勤で利用している生徒・学生のいる家庭の経済的負担が大きいものとなっております。

このことから市では、市内在住の学生を対象に、鉄道又はバスの通学定期乗車券購入費用に対して、運賃値上げ分を助成することといたしました。

この助成事業により子育て支援の充実を図るとともに、公共交通への転換による利用者が増加することで公共交通の維持・確保につながることを期待しています。

#### （５）水道給水開始５０周年記念事業によるデザインマンホール蓋の作成について（経営課）

滝沢市の上水道が令和７年４月１日に給水開始５０周年を迎えるあたり、記念事業としてデザインマンホール蓋を作成しましたのでお知らせいたします。

デザインマンホール蓋は全部で４枚作成し、上下水道部のキャラクターである「タッキー&サワー」が蒼前神社、すいかガスタンク、岩手山、小岩井駅を訪れている様子となっています。

これは、上下水道部の若手職員のアイデアを基に、市内在住のデザイナーである「たぐさん」がデザインしました。

なお、このデザインマンホール蓋は、滝沢総合公園内のクアオルト健康ウォーキングのコース上に設置する予定で、現在は市役所分庁舎１階ロビーに展示しております。

### ５ 市発表案件について記者からの当日質問

記者：学生アルバイト発表会について、いつから学生アルバイトは市に来ていて、これまでは何人ほどの学生がアルバイトとして雇用されたのですか。

経済産業部長：令和２年度からです。コロナでアルバイトが無くなり大変だということで、経済的な観点から始めたものです。初期は年間２０～３０人ほどいました。当時は事務補助や学校の消毒作業などもやってもらっていました。今年は６人雇用しています。当時は事務的な要素が強かったですが、今は学生ならではの発想や、映像編集、企画など、学生ならではの力を貸してもらうことを目的に雇用しています。

記者：令和２年度から毎年雇用していて、今年度で４年目ということですか。

経済産業部長：そうです。

記者：学生アルバイトが配属されている４課はどこですか。

若者活躍推進室長：総務課、地域づくり推進課、都市政策課、観光物産課です。２室は若

者活躍推進と、たきざわ魅力発信室です。

記者：運賃値上げ分の助成について、市としては初めて実施するものですか。

都市政策課長：今回が初めてです。

記者：学生というのは大学生を指していますか。

都市政策課長：大学生や高校生、中学生なども含めて、通学定期券を使っているすべての方が対象です。年齢も制限はありません。

記者：物価高騰対策とのことですが、財源はどこですか。

都市政策課長：地方創生臨時交付金で、100%充当なので活用しています。2月補正予算で可決済みで、4月1日から実施したいものです。

記者：事業費はどれくらいですか。

都市政策課長：約800万円計上しています。

記者：他市でも同じような助成を実施しているのですか。

都市政策課長：盛岡市や岩手町では、IGRに限定して助成しているところもあります。また、岩手町ではバスも対象にしています。盛岡都市圏では、鉄道、バスを含んだ助成は当市が初めてになると認識しています。

記者：市長にお聞きします。物価高騰の影響は様々なところに及んでいますが、学生などの補助、助成に踏み切った理由を教えてください。

市長：経済的な支援というのも理由の一つではありますが、公共交通を利用する意識を持ってもらいたいという思いもあります。公共交通についても学生から様々な提言をもらっている部分もあります。そして、市でも交通事業者にさまざま支援をしてくれています。しかし、市が支援をしていることについてなかなか市民の皆さんに理解いただけていない部分もあります。今後は、市民の皆さんにとって公共交通をより身近なものにして、利用してもらえるようにシフトしていければと考えています。滝沢市は交通の結節点として、公共交通を利用しやすい環境にあると思っています。市民の皆さんには、様々な場面で公共交通を利用してもらえればと思います。使っていただくことで、小岩井から海外の方など市にいろんな方が訪れていることをはじめ、今の市の立ち位置を学生の皆さんに感じてもらえるきっかけになればと考えています。

記者：マンホール蓋について、公募ではなく、たぐさんに直接依頼したのですか。

上下水道部長：そうです。

記者：ロビー展示はいつまでで、コース上への設置はいつ頃ですか。

上下水道部長：コース上への設置は来年度、クアの道を皆さんが使い始める前にはということに予定しています。おそらく連休（5月中）くらいまでにはコース上に設置する予定です。分庁舎への展示はそれまでの間です。

記者：市長にお聞きします。4つのマンホールデザイン見て、感想をお願いします。

市長：どのデザインも、上下水道部のキャラクターである「タッキー&サワー」がいろいろな場面をいきいきと紹介してくれていると思います。市の上水道は99.3%が地下水で賄われており、そういったことを市民の皆さんにももっと知ってもらいたいと考えています。これは、蛇口をひねるとミネラルウォーターが出てくるのと同じです。そういったことをしっかり周知していきたいと考えています。たぐさんという、市在住のデザイナーがつくってくれたことは、市の持つ一つの文化的財産だと思っています。広く市

民の皆さんと共有できればと思っています。

## 6 その他記者からの当日質問

記者：大船渡の火災について、雨で弱まりはしましたが、まだ鎮圧していません。滝沢市でも応援職員の派遣など、これからの支援について教えてください。

市長：今現在要請を受けているのが12名で、その中に保健師や運転手が含まれています。職員に投げかけたところ、反応があり、枠もすぐに埋まりました。また、発災3日目くらいに、障がいのある施設利用者の皆さん6名を受け入れて、市の施設の協力を得て過ごしていただいています。これから被災状況ももっと出てくると思います。直接訪れなくてもできること、沿岸部のものを買う支援など、意識しながら被災地の支援にあたっていきたいと思います。

記者：施設へ6名を受け入れているという話ですが、県からの要請があったものですか。

副市長：施設間の調整のうえ、直接施設に依頼があったものです。30名くらいの方が避難の必要があるということで、身体障害者福祉協会を通しながら、直接施設に依頼がありました。市では6名を受け入れた施設に、段ボールベットや災害対応物資などをお持ちしています。

記者：わかる範囲で、民間での支援の状況は何か情報がありますか。

副市長：市内の事業所などの動きについては入ってきていません。

記者：空気の乾燥などもあり、4、5月の山火事への危険性について、市民の皆さんにメッセージをお願いします。

市長：市は火災ゼロが続いています。防災・防火広報もしっかりとしながら、消防団の皆さんにも周知・広報に協力いただきつつ、火の取り扱いなどについて注意喚起していきたいと思います。山林火災の恐ろしさを目の当たりにして驚いています。自治会なども通して、防火に関して周知などをしていきたいと考えています。